

1 単元名 筆者の意図をとらえ、自分の考えをもとに一時計の時間と心の時間（説明文）――

2 単元の目標

筆者が挙げる事例の数とその内容、並べ方の意図を検討することを通して、読み手に筆者の主張が伝わりやすくするために論の進め方を工夫していることを理解し、筆者の事例と自分の知識や経験とをつなげ、筆者の意図について自分の考えをもつことができる。

3 単元と児童（男子16人、女子8人、計24人）

国語の学習では、物語文の登場人物の人物像について叙述を基に捉えたり、仲間の考えを自分の考えと比べて聞き、自分の考えを深めたりするなど、意欲的に取り組む児童が多い。しかし、昨年度のNRTでは、物語文の人物像の理解の小問内容の正答率が96%であったのに対し、説明文の構成の理解、段落構成理解の小問内容では、正答率が58%、50%となっており、文章構成についての確実な理解は不十分である。文章構成全体の構成を捉えられなければ、内容的確かな把握につながらない。

本単元「時計の時間と心の時間」の学習では、「筆者の論の進め方を明らかにしたい」という児童の思いを醸成するために、「時計の時間」と「心の時間」どちらが大切だと思うのか、立場を明確にさせる。立場にずれが生まれることで、筆者の事例と主張とのつながりを明らかにしたいという児童の意欲を高めたい。また、文章構成の似ているもう一つの説明文である「笑うから楽しい」を初めに扱う。短い説明文であるが、筆者の主張を分かりやすく伝えるために複数の事例を挙げるという文章構成の特徴をおさえる。このように単元の構成をすることで、初めの短い説明文で「主張を支える事例を挙げることが読み手の理解を助け、主張に説得力をもたせる」といった見方を知り、それを生かして本単元の説明文が読めるようにスモールステップを踏めるようにしていく。

これらの実態から本単元を通して目指す姿を以下のように設定する。

筆者が挙げる事例の数とその内容、並べ方の意図を仲間と検討することを通して、筆者が、読み手に主張が伝わるように工夫して論を進めていることを理解し、筆者の事例と自分の知識や経験とをつなげ、筆者の意図について自分の考えをもつことができる。

4 「見方・考え方」、問い返しと話し合い活動の工夫、価値付けの仕方の構想

（1）言葉による見方・考え方について ～論の進め方の工夫「事例を挙げて述べる」～

本単元では、筆者の論の進め方の工夫という見方で説明文を読んでいく。筆者は読み手理解してもらいやすくするために、「事例を挙げて述べる」工夫をしていることを捉えていく。その際、事例がなかった場合やいずれかの事例が欠けた場合と比較した上で、なぜ複数の事例を挙げながら説明したのかについて考えさせることで、筆者の意図に気付かせていきたい。

（2）問い返しと話し合い活動の工夫について ～根拠や理由を明確にする問い返しと目的に合わせた話し合い活動の場の設定～

自分の考えを書いたり述べたりする際には、根拠や理由を明確にさせたい。抽象的な表現であったり、根拠が明確でなかったりする場合には、「どうしてそう思ったの?」と問い返すことを大切にする。その後、確認や共有、合意といった活動の目的に合わせてペアやグループの話し合いの場を設定し、全員で問題解決に向かうことができるようにする。

(3) 言葉による見方・考え方の価値付けについて ～見付けた見方・考え方の掲示～

単元を通して見付けた筆者の論の進め方の工夫だけでなく、説明文の読みに必要な見方・考え方を掲示し、児童がその見方・考え方を活用できるようにする。活用しながら読むことで、その見方・考え方を働かせて読むことのよさに気付かせていきたい。

5 指導計画（全6時間）※次の書く単元である「私たちにできること」の学習に学びを生かしていく。

次	時	学習活動	評価規準
1次 (2)	1	・「笑うから楽しい」を読み、主張と事例のつながりを考える。 「事例を挙げて述べる」	「双括型」の文章構成であることと事例が二つあることをおさえ、主張とのつながりを理解する。（知識・技能）
	2	・「時計の時間と心の時間」を読み、題名のどちらの時間が大切かを考える。	どちらの方が大切だと感じられたのか、根拠や理由を基に考える。（思考・判断・表現）
	◎筆者はどちらの時間が大切だと伝えたくて、書き方をどのように工夫したのかはつきりさせよう。		
2次 (3)	3	・「序論」と「結論」を読み、筆者の主張を捉える。 「文章全体の構成 序論 本論 結論」 「くり返される言葉」	「時計の時間」「心の時間」という言葉に着目したり、文章全体の構成を確かめたりすることで、筆者の主張を理解する。（知識・技能）
	4	・筆者が挙げている事例についてその内容を短い言葉でまとめる。 「事例を挙げて述べる」	4つの事例について短い言葉でまとめている。（思考・判断・表現）
	5	・筆者はどんな思いでこの順番に4つの事例を並べたのかを考える。（本時） 「事例の順番」	身近で想起しやすい事例を挙げていることや理解しやすい順に述べられることなど、筆者の意図を理解する。（知識・技能）
3次 (1)	6	・筆者の論の進め方について自分はどう思ったのかを考える。 「書き方の工夫」	捉えた筆者の意図について、知識や経験とをつなげ、共感や補足など、自分なりに考える。（思考・判断・表現）

※ □ は、想定している見方・考え方である。

6 本時について（5/6時間）

(1) 目標

筆者が挙げる事例の並べ方の意図を検討することを通して、4つの事例を身近な生活のことを例に挙げたり、理解しやすい順番で示したりして、読み手に筆者の主張が伝わりやすくなるように論を進めていることを理解し、筆者の意図を捉えることができる。

(2) 「見方・考え方」、問い返しと話し合い活動の工夫、価値付けの仕方の構想

①言葉による見方・考え方について ～論の進め方の工夫「事例の順番」～

本時では、筆者がなぜ4つの事例をこの順番で読み手に提示したのかを考えることで、論の進め方には、「事例の順番」という見方も読み手を納得させるための論の進め方の工夫であることに気付かせたい。

②問い返しと話し合い活動の工夫について ～分かりやすさを具体的にする問い返しとペアやグループでの話し合い活動の場の設定～

筆者の主張と事例のつながりに目を向けさせた後、4つの事例とその内容を短い言葉でまとめ、どうして筆者は、その内容をその順番で挙げたのかを考えさせる。「筆者が分かりやすく伝えるため。」という児童の反応が予想されるが、そこで「分かりやすく伝えるためってどういうこと？」と問い返しを行う。児童全員に考えさせるため、ペアやグループでの話し合い活動の場を設定する。問い返しによって、児童の経験に近い例を想起させることで、筆者が主張をより分かりやすく伝えようとしていることを明らかにしていく。

③言葉による見方・考え方の価値付けについて ～論の進め方について自分の考えを書く場の設定～

次時では、筆者の挙げている事例と自分の知識や経験とを比べ、筆者の事例の内容や並べ方の意図に対して共感や補足などの自分なりの考えをもつ場を設定する。論の進め

方について自分なりに考えたことを書かせていく。主張を読み手に分かりやすく伝えるには、「事例を挙げて述べる」だけでなく「事例の順番」も大切だという読み手を納得させる「論の進め方」のよさに気付いた姿を見逃さず、価値付けしていきたい。

(3) 展開

時間	児童の追求の深まりや教師の支援	※指導上の留意点 ○教師の支援 ☆評価
導入 8分	T1: 筆者は「心の時間」の大切さを述べるために、いくつかの事例を挙げ、それぞれどんな内容だったかな。 C1: 4つの事例を挙げていた。 C2: 「心の状態」「朝昼夜の体の状態」「身の回りの環境」「人による感覚のちがい」の内容だったよ。 T2: 事例の順番はどうだったかな。どんな思いで筆者はその順番で事例を並べたのだろう。 C3: 読み手に分かりやすく伝えるため。 C4: なぜなのだろう。難しいな。よく分からない。	○筆者の主張と事例のつながりに目を向けさせる活動を組織する。
展開 27分	◎筆者はどんな思いでこの順番に4つの事例を並べたのかはつきりさせよう。 T3: 読み手に分かりやすく伝えるためってどういうことなのかな。 【問い返しと話し合い活動の工夫】 C5: 一つ目の事例は身近なゲームの話を出して、「心の状態」で時間の進み方が違うことを述べている。 C6: 二つ目の事例も自分たちもすぐに納得できるような「時間による体の状態」の話を出している。 C7: 三つ目の事例から、「環境」と「感覚」の話になって難しくなっている気がする。 C8: 簡単な事例から難しい事例を挙げていくことで読む人により納得してもらおうとしたのだと思う。 【言葉による見方・考え方】 T4: 読み手を納得させる文章を書くために、筆者は身近な事例を挙げたり、事例の順番を簡単な事例から難しい事例になるように工夫したりして文章に説得力をもたせていることに気付いたね。 【言葉による見方・考え方の価値付け】	○事例の順番を基に筆者の意図について考える活動を組織する。(個人) ○問い返し後に、分かりやすく伝えるための具体についてペア、グループで話合う場を設定する。 ※ミライシードのオクリンクを活用し、グループの考えを提出させ、全体に可視化する。
まとめ 5分	<u>書き方の工夫3</u> 筆者は、より分かりやすく伝わるように、身近な事例(ゲーム)を挙げたり、簡単な事例から難しい事例へと理解しやすい順番で示したりした。 <u>事例の順番</u> T5: 筆者の事例の順番の工夫について考えたことや思ったことをノートに書きましょう。 C9: ○班の考えから、筆者は適当な順番で事例を挙げているのではなく、読み手を納得させるために書き方を工夫していることが分かった。 C10: 自分が「心の時間」に目を向けることがとても大切だと思ったのには、筆者が事例の順番まで考えて文章を書いていたからなのだった。	※分かりやすく伝えるための具体について「事例の順番」などの気付きを書き方の工夫として価値付けしていく。 ○筆者の事例の順番の工夫についてふり返る場の設定 ☆身近で想起しやすい事例を挙げていることや理解しやすい順に述べられることなど、筆者の意図を理解している。(知識・技能)

主張

「心の時間」に目を向けることが、
時間と付き合っていくうえで、とて
も重要である。

事例から分かること

「心の時間」には、さまざまな事がらのえいき
ょうを受けて進み方が変わったり、人によって
感覚がちがったりする特性がある。

筆者はなぜこの順番で事例を並べたの？

事例④ 人による
感覚のちがい

事例③ 身の回りの
環境

事例② 朝昼夜の
体の状態

事例① 心の状態

分かりやすく伝えるため。

◎どんな思いで筆者は四つの事例をこの順番で並べたのかはつきりさせよう。

分かりやすく伝える工夫とは？

○身近な話を挙げている。↓ゲーム
自分もやっているから読みたくなる

○心↓体↓環境↓感覚 ↓簡単な話から難しい話へ
最初に難しい話がくるとよく分からなくなる
だんだんレベルアップしていくから理解しやすい

○最後に簡単な実験を挙げている。↓今すぐ試せる
実際に今すぐできる実験を紹介することで
最後の最後まで読み手を納得させようとしている

書き方の工夫3

事例の順番

筆者は、より分かりやすく伝えるために、身近な事例（ゲーム）を挙げたり、簡単な事例から
難しい事例へと読み手が理解しやすい順番で示したりしている。